

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200155		
法人名	有限会社 ワイエイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティあらい		
所在地	静岡県湖西市新居町新居117-3		
自己評価作成日	令和2年3月4日	評価結果市町村受理日	令和3年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みんなが家族のような、アットホームな雰囲気、笑顔のある居心地の良い居場所創りを心掛けています。コロナ禍で外出や面会が出来ない為、より心地よい空間づくりに努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigvoCd=2278200155-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvoCd=2278200155-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 3月 26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人本部や併設する他のサービス事業所とともに、地域に密着した事業所運営を実践している。現在はコロナ禍により家族・地域住民との交流機会はないが、平常時には、事業所主催のお祭りや地域行事、子ども会等との交流が行われていた。管理者は、「サンシティあらい新聞」を町内で回覧するなど、関係継続を図っている。外国人職員が多く、管理者は事業所理念やマニュアル等にフリガナをつけて、職員同士の意思疎通や情報共有を図り、職員の働きやすい環境作りを心掛け、利用者が穏やかに過ごせる環境作りへとつなげている。調理専門の職員による手作りの食事を、職員と利用者が一緒に食べ、会話の中から好みを聴き取り、行事食や献立作りに反映している。津波避難地域のため、消防署協力のもと、避難方法の確認とライフジャケット着用訓練を実施している。感染症対策として、天窓による換気・消毒を徹底し、清潔な環境作りを努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットのフロア内や、施設内各所に掲示し、いつでも確認する事が出来る様になっている。 各ユニットに掲示してあるものは、ふりがなをふり、外国人職員にもわかりやすいようにしてある。	記録に読み仮名(ルビ)をつけて外国人職員にも配慮し、職員同士の丁寧な意思疎通を心掛けている。管理者は、申し送りノートにこまめに目を通し、必要な情報は朝ミーティングを利用して共有を図っている。運営推進会議議事録に必ず記載し、常に意識して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事の中に、同地区のこども会、敬老会、女性の会との交流を設けていたが、コロナ禍で交流が出来なくなっているが、毎月施設の新聞を同地区と隣の地区に回覧してもらっている。	コロナ禍により、地域行事への参加やボランティアとの交流を制限しているが、「サンシティあらい新聞」の回覧依頼などにより関係継続を図っている。平常時には併設の事業所と協力して、シニアサロンとの交流や事業所開催のお祭りへの招待など、近隣住民との交流機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症について話をしたり、相談にのったりして理解や支援の方法を伝えていたが、現在資料を配布の形をとっている為、今後資料内に認知症の人の理解と支援の方法を載っていく予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により資料配布の形をとっているが、意見やアドバイスをいただいた時にはサービス向上に活かせるよう努力している。	コロナ禍の現状で書面開催となっているが、平常時は、市役所職員、地域包括支援センター担当者が交互に参加し、町内会長、民生委員、家族代表(年1回)の参加により、多様な意見や指摘を受け、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状やサービス内容について相談し、意見や助言を頂いたりしている。	運営推進会議が書面開催となり、直接事業所への訪問機会はないが、法人本部担当者や管理者は、議事録を持参するなどの機会を利用しながら、逐次情報交換できる関係を継続している。シニアサロン開催の相談や中・高生の福祉体験実施などの相談実績がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしている事を日頃から話しており、身体拘束をしない事を理解し、身体拘束をしないケアをしている。	指針・マニュアルを整備して、身体拘束適正化委員会は3か月に1回、研修会は年2回開催している。外国人職員もいることから、研修では身体拘束を行わないことの意味など、フリガナ付きの研修材料を用意して、丁寧に取り組んでいる。	

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員との個別の話し合いや、ミーティングで意見交換をして、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が主に学んでおり、必要性があると判断したり、相談を受けた時に支援できる体制を取れるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはわかりやすい説明を心掛け、確認しながら進めています。また、質問があった時には、理解し、納得して頂けるよう説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議資料の中にいつでも意見を頂けるように一文を添えており、事業所入口には意見箱の設置をしています。また、電話で意見や要望を聞き、運営に反映できるよう努めている。	毎月「サンシティあらい新聞」を発行し、利用者や事業所の様子を伝えている。コロナ禍により面会を制限しているため、管理者は、運営推進会議資料を郵送して意見の聴き取りを図るとともに、家族へのこまめな電話連絡を心掛け、要望・意見の聴き取りに努めている。	コロナ禍の現況では家族との接触機会が少なくなっているが、介護計画作成には家族の意向は大事な要素であることから、オンラインや窓越し面接、外出支援時での面談等、コロナ禍の中でもできる工夫の検討に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案を言いやすい雰囲気を中心掛け、管理者から代表者へ報告をし、職員の意見や提案を共有し、反映できるよう努めている。また、代表者は休憩で一緒になった職員に気軽に声掛けをし、意見や提案をしやすい雰囲気でも話を聞き、反映できるよう努めている。	管理者は、日頃から職員への声掛けを中心掛け、職員からの意見や提案を吸い上げやすい環境作りに努めている。課題が散見された場合は、都度注意するほか、朝ミーティングにおいて必要な情報の共有に努めている。法人本部が隣接し、常に意見交換できる状態である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりをよく理解して、話を聞いて相談に乗ったり、個々に合わせた対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が受けたい研修などがあれば、費用を負担し、行きやすい勤務体制を整えるよう管理者に指示を出し、研修に行きやすい体制を創っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者主催の研修参加をしたり、電話で相互の状況などを話し合ったり、情報交換をし、サービスの質の向上できるよう努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく聞き、寄り添い、不安な事や困っていることなどを聞き取ったり、読み取ったりして安心を確保できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前段階において、家族と本人の意向、要望をよく聞き取り、出来る事、出来ない事を明確にし、お互いが共通の認識を持てるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態、環境などを理解し、他のサービス利用も含め、その時に合った支援を提案、提供をし、本人、家族が必要とするサービスが受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、お互いの信頼関係を創り、同じ食事をしながら寄り添った立場で日常生活を送ることで、暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話し合いの中で、家族の協力が不可欠である事を理解してもらい、家族と施設は「チーム」として考えている事を話し、お互いの関係を築き、何でも話せる関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃から昔懐かしの話を聞いたりして、馴染みの人や場所を思い出してもらったり、馴染みのお店などに行き関係が途切れないように努めていたが、コロナ禍で外出を控えていたり、面会制限を行っている為十分な支援にはなっていない。通院の際、車で馴染みの場所をまわったりする事で支援に努めている。	コロナ禍により外出・訪問が制限されている中、家族や利用者から聴き出した話を参考に、地域の散歩や車での通院時に馴染みの場所に出掛けるなど、できる限りの支援を心掛けている。参加できなかったお祭りを、事業所内での行事レクに取り入れたり、月1回理容師訪問など、事業所内での暮らしを工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や入居者同士の関係を把握し、職員が架け橋となり、全員が一体感を持って、安心して安全に暮らせるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、相談があればいつでも相談に乗れる事を伝え、いつでも相談に対応できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で一人一人の希望、意向、要望を聞き出したり、感じ取り把握できるよう努めている。また、会話が困難な入居者様の場合には、表情や動きを観察して、気持ちをくみ取れるように努めている。	管理者とケアマネジャーは、入居時、利用者や家族の意向や暮らし方の希望について「フェイスシート」に整理し、職員との情報を共有している。「ライフサポートプラン①②」により、時間ごとの暮らし方を細かく確認しながら、利用者・家族の意向に沿った支援内容を実践することができる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から情報を提供してもらったり、ご本人の話を聞いてご家族に確認したりして、一人一人の入居前の暮らしやサービスの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズム、心身状態、持っている力を把握し、状態変化があった時には申し送りをして、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状を理解したうえで、より暮らしやすくなるために、必要に応じて話し合いをし、ご家族の納得の下、現状に即した介護計画を作成している。	「ライフサポートプラン」「経過記録」などの記録と、タブレットを活用し、管理者・ケアマネジャー・職員と情報の共有を図っている。外国人職員も多いことから、カンファレンスは都度行い、丁寧な意見交換や情報共有を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の観察から、普段とは違う言動や行動、気になる様子など支援に必要なキーワードは記録し、全員で共有し、実践や計画見直しに活かしている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念にとらわれず、一人ひとりの状況に合わせた柔軟な対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所での買い物、外食、散歩など、暮らしを楽しめるような支援を心掛けていたが、コロナ禍で出来ない為、室内装飾をより工夫して暮らしを楽しめるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関を希望される方が多いですが、今までのかかりつけ医を希望される場合にも、病院と連携を取りながら支援している。	協力医は必要に応じて往診で対応している。法人グループに所属する看護師が週1回訪問して健康管理を行い、管理者・職員と情報を共有している。かかりつけ医への通院支援は、家族と相談のもと、事業所職員が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師といつでも連絡が取れる体制になっている。また、協力医ともいつでも連絡が取れるようになっており、指示がもらえる体制に有、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の状態把握をし、入院時にはスムーズな情報提供ができるよう努めている。入院中の情報がスムーズに入るよう日頃から病院のケースワーカーと連絡を取り関係創りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に方針の確認をしていますが、状態に変化があった時や、終末期に近いと思われるご家族とは、主治医にも立ち会ってもらい、今後の方針について再度話し合いをし、方針に従い共にチームとして支援に取り組んでいる。	重度化した場合の事業所の対応は、入居時に利用者・家族へ説明し、同意を得ている。終末期を迎える際には、再度主治医・看護師・職員が家族と話し合い、家族の意向に沿った対応と支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていませんが、職員の入れ替わりの様子で行うようにしている。2018年にAED講習を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回防災訓練を行っており、消防署と地域の防災委員の方に来ていただきアドバイスをいただいていたが、今年度は、紙上訓練と、職員のための訓練を行った。また、ライフジャケット、ヘルメット着用の訓練もしています。	外国人職員のためにフリガナ付きの防災マニュアルを整え、年2回、火災・夜間を想定して避難訓練を行い、職員の共通理解を図っている。津波避難地域のため、避難方法の確認とライフジャケット着用訓練も実施した。災害対策備蓄品は3日間を目途に備蓄し、ローリングストックにて管理している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に寄り添った支援をすることで人格を尊重し、プライバシーを損ねない声掛けや対応に努めている。	入社時に、プライバシー尊重やスピーチロックについての研修を行っている。接遇については、都度管理者が注意し、プライバシーに配慮した声掛けや対応に取り組んでいる。新聞への写真掲載については、家族の許可を得て、町内へ回覧している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状態に合わせて、オープンクエストとクローズドクエストを使い分け、出来る限り自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているが、それぞれのペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度床屋さんに来ていただいております。散髪、顔剃りをし、身だしなみを整え、清潔感を保ち過ごせるよう支援している。入居前に化粧水などを使っていた方は継続して使えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	フロアから見える調理場で職員が食事の支度をし、音や匂いも感じてもらい、職員が同じ食卓で同じ物を食し、食事が楽しめるよう努めている。	調理専門の職員が、食材を調達して季節ごとに多彩なメニューを提供し、食事を楽しむ仕組みを整えている。職員は、利用者と配膳・下膳を手伝いながら一緒に食事を摂り、会話の中から好みを聴き取り、行事食や日々の献立作りに反映している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を記録し、必要量が摂取できているかの確認をし、その都度対応している。また、一人一人に合わせた食事形態で提供している。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に出来ない方もおり、夕食後に重点を置きほとんどの入居者様が介助にてその人に合った口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導見守りにて立てる方は日中トイレで排泄の支援をしている。	「排泄チェック表」に水分量と排泄を記録し、利用者個々の排泄パターンを把握して声掛けや誘導を行い、トイレの利用を支援している。夜間はポータブルトイレ利用者も、日中はトイレ利用を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らないでいように、バランスの良いメニューを心掛け、体操や歩行運動などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には三日に一度、午前中の中の入浴になります。ゆず湯やしょうぶ湯など季節を感じて楽しんでもらえるように支援している。	週3回、午前浴を基本としているが、本人の体調や気分により柔軟に対応している。重度利用者でも安全な入浴支援を実施するため、入浴リフト機器の設置を予定している。入浴拒否がある時は、季節感を楽しむ入浴剤を利用するなど入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のリズムでお昼寝をして頂いたり、夜もそれぞれの時間で入床して頂き、居室の温度が一年を通し快適に過ごせる温度設定をし、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について把握し、医師の指示通りに介助している。薬に変更があった時には申し送り、症状の変化などの確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人出来る事を役割として行って頂き、残存機能の保持を兼ねて支援している。また、嗜好品を買ったり、外に出る事で気分転換が出来るよう支援している。		



静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その人の希望通りに出かける事が出来ない時は、希望に沿って外出を計画して出来る限り出かけられるように支援していたが、コロナ禍で現在は外出の支援ができない状況。	以前は、スーパーへの買い物や外食、初詣など出掛けることが多かった。コロナ禍により外出行事は中止しているため、通院時に遠回りしてのドライブや、ベランダを利用した外気浴、近隣の散歩など、利用者の希望に合わせた個別対応を模索している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族と施設で管理をしているが、本人の希望があり、家族の同意の下、同意の額を本人が所持し、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在自分で電話が掛けれる人がいないが、希望があれば、見守りの下、電話を掛けたり、こちらで電話をかけ、電話口に出てもらい話ができるよう支援する体制にある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓を開けることで、光や風を感じてもらっている。また、季節に合わせた壁の装飾を心掛け、フロア内が華やかで居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	居間の天井が高く、天窓により採光と換気が保たれている。早朝に清掃し、清潔な共有空間を保っている。感染症対策として、換気・消毒に留意し、特にトイレの消毒を徹底している。職員手作りの彩り豊かな作品を飾り、利用者も職員も居心地良く過ごせる空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションや体操を2ユニット一緒に行ったり、時間を共有して楽しく過ごせるよう支援している。基本的には自由に過ごしてもらい、何事も無理強いはない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	地震など災害時の安全上、重たいタンスなどの持ち込みは遠慮して頂いているが、馴染みの物を居室で使用して頂き、心地良く、安心して過ごせるよう支援している。	居室にはベッドと大きなクローゼットがあり、馴染みの家具を持ち込み、利用者好みの部屋作りを支援している。安全に配慮した家具の配置を考え、利用者の心身の状態に合わせて模様替えをすることもある。感染症対策として、換気・消毒に留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも自由に動きがとれるように、障害物をなるべく取り除き、安全に動けるよう支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200155		
法人名	有限会社 ワイエイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティあらい		
所在地	静岡県湖西市新居町新居117-3		
自己評価作成日	令和2年3月4日	評価結果市町村受理日	令和3年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2278200155-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2278200155-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 3月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みんなが家族のような、アットホームな雰囲気、笑顔のある居心地の良い居場所創りを心掛けています。コロナ禍で外出や面会が出来ない為、より心地よい空間づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットのフロア内や、施設内各所に掲示し、いつでも確認する事が出来る様になっている。 各ユニットに掲示してあるものは、ふりがなをふり、外国人職員にもわかりやすいようにしてある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事の中に、同地区のこども会、敬老会、女性の会との交流を設けていたが、コロナ禍で交流が出来なくなっているが、毎月施設の新聞を同地区と隣の地区に回覧してもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症について話をしたり、相談にのったりして理解や支援の方法を伝えていたが、現在資料を配布の形をとっている為、今後資料内に認知症の人の理解と支援の方法を載ていく予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により資料配布の形をとっているが、意見やアドバイスをいただいた時にはサービス向上に活かせるよう努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現状やサービス内容について相談し、意見や助言を頂いたりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしている事を日頃から話しており、身体拘束をしない事を理解し、身体拘束をしないケアをしている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員との個別の話し合いや、ミーティングで意見交換をして、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が主に学んでおり、必要性があると判断したり、相談を受けた時に支援できる体制を取れるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはわかりやすい説明を心掛け、確認しながら進めています。また、質問があった時には、理解し、納得して頂けるよう説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議資料の中にいつでも意見を頂けるように一文を添えており、事業所入口には意見箱の設置をしています。また、電話で意見や要望を聞き、運営に反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案を言いやすい雰囲気を心掛け、管理者から代表者へ報告をし、職員の意見や提案を共有し、反映できるよう努めている。また、代表者は休憩で一緒になった職員に気軽に声掛けをし、意見や提案をしやすい雰囲気で話を聞き、反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりをよく理解して、話を聞いて相談に乗ったり、個々に合わせた対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が受けた研修などがあれば、費用を負担し、行きやすい勤務体制を整えるよう管理者に指示を出し、研修に行きやすい体制を創っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者主催の研修参加をしたり、電話で相互の状況などを話し合ったり、情報交換をし、サービスの質の向上できるよう努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく聞き、寄り添い、不安な事や困っていることなどを聞き取ったり、読み取ったりして安心を確保できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前段階において、家族と本人の意向、要望をよく聞き取り、出来る事、出来ない事を明確にし、お互いが共通の認識を持てるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態、環境などを理解し、他のサービス利用も含め、その時に合った支援を提案、提供をし、本人、家族が必要とするサービスが受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、お互いの信頼関係を創り、同じ食事をしながら寄り添った立場で日常生活を送ることで、暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話し合いの中で、家族の協力が不可欠である事を理解してもらい、家族と施設は「チーム」として考えている事を話し、お互いの関係を築き、何でも話せる関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃から昔懐かしのお話を聞いたりして、馴染みの人や場所を思い出してもらったり、馴染みのお店などに行き関係が途切れないように努めていたが、コロナ禍で外出を控えていたり、面会制限を行っている為十分な支援にはなっていない。通院の際、車で馴染みの場所をまわったりする事で支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や入居者同士の関係を把握し、職員が架け橋となり、全員が一体感を持って、安心して安全に暮らせるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、相談があればいつでも相談に乗れる事を伝え、いつでも相談に対応できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で一人一人の希望、意向、要望を聞き出したり、感じ取り把握できるよう努めている。また、会話が困難な入居者様の場合には、表情や動きを観察して、気持ちをくみ取れるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から情報を提供してもらったり、ご本人の話を聞いてご家族に確認したりして、一人一人の入居前の暮らしやサービスの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズム、心身状態、持っている力を把握し、状態変化があった時には申し送りをして、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状を理解したうえで、より暮らしやすくなるために、必要に応じて話し合いをし、ご家族の納得の下、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の観察から、普段とは違う言動や行動、気になる様子など支援に必要なキーワードは記録し、全員で共有し、実践や計画見直しに活かしている。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念にとらわれず、一人ひとりの状況に合わせた柔軟な対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所での買い物、外食、散歩など、暮らしを楽しめるような支援を心掛けていたが、コロナ禍で出来ない為、室内装飾をより工夫して暮らしを楽しめるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関を希望される方が多いですが、今までのかかりつけ医を希望される場合にも、病院と連携を取りながら支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師といつでも連絡が取れる体制になっている。また、協力医ともいつでも連絡が取れるようになっており、指示がもらえる体制に有、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の状態把握をし、入院時にはスムーズな情報提供ができるよう努めている。入院中の情報がスムーズに入るよう日頃から病院のケースワーカーと連絡を取り関係創りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に方針の確認をしていますが、状態に変化があった時や、終末期に近いと思われるご家族とは、主治医にも立ち会ってもらい、今後の方針について再度話し合いをし、方針に従い共にチームとして支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていませんが、職員の入れ替わりの様子で行うようにしている。2018年にAED講習を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回防災訓練を行っており、消防署と地域の防災委員の方に来ていただきアドバイスをいただいていたが、今年度は、紙上訓練と、職員のための訓練を行った。また、ライフジャケット、ヘルメット着用の訓練もしています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に寄り添った支援をすることで人格を尊重し、プライバシーを損ねない声掛けや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状態に合わせて、オープンクエスションとクローズドクエスションを使い分け、出来る限り自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているが、それぞれのペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度床屋さんに来ていただき、散髪、顔剃りをし、身だしなみを整え、清潔感を保ち過ごせるよう支援している。入居前に化粧水などを使っていた方は継続して使えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	フロアから見える調理場で職員が食事の支度をし、音や匂いも感じてもらい、職員が同じ食卓で同じ物を食し、食事が楽しめるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を記録し、必要量が摂取できているかの確認をし、その都度対応している。また、一人一人に合わせた食事形態で提供している。		



静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に出来ない方もおり、夕食後に重点を置きほとんどの入居者様が介助にてその人に合った口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導見守りにて立てる方は日中トイレで排泄の支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らないでいようように、バランスの良いメニューを心掛け、体操や歩行運動などを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には三日に一度、午前中の中の入浴になります。ゆず湯やしょうぶ湯など季節を感じて楽しんでもらえるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のリズムでお昼寝をして頂いたり、夜もそれぞれの時間で入床して頂き、居室の温度が一年を通し快適に過ごせる温度設定をし、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について把握し、医師の指示通りに介助している。薬に変更があった時には申し送り、症状の変化などの確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人出来る事を役割として行って頂き、残存機能の保持を兼ねて支援している。また、嗜好品を買ったり、外に出る事で気分転換が出来るよう支援している。		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望通りに出かける事が出来ない時は、希望に沿って外出を計画して出来る限り出かけられるように支援していたが、コロナ禍で現在は外出の支援ができない状況。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族と施設で管理をしているが、本人の希望があり、家族の同意の下、同意の額を本人が所持し、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在自分で電話が掛けれる人がいないが、希望があれば、見守りの下、電話を掛けたり、こちらで電話をかけ、電話口に出てもらい話ができるよう支援する体制にある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓を開けることで、光や風を感じてもらっている。また、季節に合わせた壁の装飾を心掛け、フロア内が華やかで居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションや体操を2ユニット一緒に行ったり、時間を共有して楽しく過ごせるよう支援している。基本的には自由に過ごしてもらい、何事も無理強いはいしない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	地震など災害時の安全上、重たいタンスなどの持ち込みは遠慮して頂いているが、馴染みの物を居室で使用して頂き、心地良く、安心して過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも自由に動きがとれるように、障害物をなるべく取り除き、安全に動けるよう支援している。		